

ほのぼの News Letter



No.7 2016年7月号

一般社団法人 ほのぼの運動協議会



CONTENTS

- | | | | |
|---|-------------------|----|------------|
| 2 | ほのぼの憲章 | 8 | 代々木公園編 |
| 3 | 第5期ごあいさつ、年間スケジュール | 10 | 高校生たちの感想 |
| 4 | 忘れな草プロジェクト 手渡し式 | 14 | 学習院馬術部編 |
| 6 | 表参道まちかど庭園編 | 16 | その他寄附／収支報告 |

ほのぼの運動憲章

—ほのぼのと夢ある社会を実現する運動—

わたしたちは、ほのぼの運動の活動を通じて日本の各地に夢と希望の灯をともし、ほのぼのとしたあたたかい場づくりを目指します。

一. 日本の食文化・農業への思い

からだにやさしい国産の食材を活かし、手づくり、本物づくりにこだわります。
日本ならではの食を通じ、食べた人の心にほのぼのとしたあたたかみを伝えます。

一. 地球環境への思い

住みやすい地球をつくるために、包装・資材などの資源にこだわります。
周辺の人たちと力を合わせて環境美化を心がけ、清潔・清掃を徹底します。

一. 地域コミュニティへの思い

街のほのぼののスペース、「私の街の私のお店」と思っただけのような店づくりをします。
地域の人たちが安心して喜び集まるような、手のぬくもりが伝わる場づくりをします。

一. 働く意義への思い

売上の一部を社会に還元します。
それによってスタッフみんながはたらく(傍楽)喜びを感じられる店舗運営をします。

一. “ほのぼの”を創りつづける思い

形のない“ほのぼの”だからこそ、お客さま、コミュニティ、仲間、スタッフ、みんなの
“ほのぼの”を追求しつづけます。
“ほのぼの”運動のさらなる浸透・発展を思い描き、真の豊かさを感じ、分け合います。

一. 未来への思い

未来のために、女性の社会進出・シニア世代の活躍など新しい価値観を創造し、挑戦します。
お客さまとお店との絆、同じ地域という絆、家族の絆、働く仲間という絆、多くの絆のな
かから、新しい社会を創造します。

一. 夢への思い

自分自身の夢を育み、仲間の夢を支え、お客さまの夢を大切にし、前進します。
「夢は見るものではなく、叶えるもの、そして更に追い求めるもの」との思いをみんなと共
有し、つねに忘れません。

第5期スタート

一般社団法人ほのぼの運動協議会も4月から第5期に突入しました。これも、ひとえに日々店舗でがんばってくださっている皆様、活動を支えてくださっている協力会社の皆様のおかげです。この場を借りて、お礼申し上げます。

ほのぼの運動は、「店舗のみなさんが誇りに思える活動をしよう」ということから始まっています。もちろん、安全で安心できるおいしい食を提供することも立派な社会に対する貢献ですが、それをさらに推し進めて、得られた利益を社会に再び還元することで、より一層働いていることを誇れ、人々から愛され、支持されるお店となれるのではないかと思います。

社会に対する還元には二つの方法があります。一つは、直接寄附をすること、もう一つが活動で貢献することです。例えば、災害に際しては直接被災者にお金が入る義援金と、現地で活動するボランティア団体などの活動資金になる支援金というものがあります。

ほのぼの運動は、これまで地域貢献プロジェクトやほのぼの活動支援といった店舗での活動、また私たちの代わりに現場で活動してくれている団体への支援を主に行ってきました。

その取り組みの延長線上で、3年前からは「忘れな草プロジェクト」が、昨年からは「チャレンジ★域学交流会」がスタートしました。どちらの活動も、単純に与える者と与えられる者の関係ではなく、相互がよい影響を与えあい、成長しあいながらよりよい未来へ向かうものです。

そうして、どちらもほのぼの運動協議会からスタートしたものが、今期からは協議会の枠を超えて多くの仲間が新たに参加してくれることになりそうです。新しいフェーズへの突入です。

とはいえ、それによって店舗のみなさんの活動から離れてしまうことのないよう、第5期では店舗視察と紹介を重視していきます。店舗のほのぼの活動への支援も行っていくしますので、ぜひ積極的な活動を引き続きよろしくお願いします。

第5期 事業年間計画 スケジュール

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
店舗の地域活動	随時受付・実行											
物資支援	随時受付・実行											
寄付事業							発表		寄付			
忘れな草プロジェクト							募込開始				手渡し式	進行
域学交流イベント					準備	実行						
JCコムサ主催 チャリティゴルフコンペ							10月5日					
フォーラム							10月26日					
理事会	理事会			理事会 総会			理事会				理事会	
WEB広報	毎月更新											
機関紙		準備		発行				発行		発行 (right)		
店舗視察	随時											
経理	基本的に事務局が経理業務を行い、毎月10日までに新宿総合会計事務所へ提出し、20日迄に会計士と打ち合わせを実行											

第3回

忘れな草プロジェクト2016 花から始まる物語



東日本大震災復興支援として福島の高校生が育てた忘れな草を東京でチャリティ配布する「忘れな草プロジェクト」。今年は、3月20日、21日の2日間にわたり表参道、代々木公園でそれぞれ開催いたしました。その様子をお伝えします。

■開催にいたるまで

2013年8月にはほのぼの運動協議会として初めて東日本大震災の被災地を訪れてから3年。あのとき、大河原理事長はじめメンバー全員が感じた「継続して支援することの必要性」を実践していくために、理事長の発案で生まれたのが「忘れな草プロジェクト」です。農業がふるわない福島で育てた忘れな草と、三陸で磨かれたホタテ貝を、都心でチャリティ配布し同時に募金を募り、それをまた翌年のイベントの原資に充てるというものでした。

2014年3月に第1回目となる「思いをつなぐ 忘れな草プロジェクト 2014」を、2015年には、「未来へ向かって 忘れな草プロジェクト 2015」を開催。参加してくれた福島の高校も2校から3校へ増え、より大きく意義のある活動となりました。

そして、今年2016年には、開催場所を銀座から表参道へ移し、また新しい形でのスタートを切りました。

■手渡し式 ～磐城農業高校～

震災で校舎が倒壊し、プレハブの仮設校舎だった磐城農業高校。昨年6月に新校舎が完成したとのことで、今回真っ先にお伺いしました。2月23日、太陽の光を燦々と浴びて丘の上に立つ真新しい校舎で、今年初参加の生徒たち、昨年参加してくれた生徒や校長先生まで総勢15名で迎えてくださいました。

今年初参加の生徒たちは口を揃えて「先輩たちがすごく楽しいって言うていたから参加した」と笑顔で言ってくれました。また、去年参加してくれた生徒たちも「またぜひ参加したいと思って」と再会を楽しみにしてくれていました。今年の栽培の際の工夫などをうかがうと、「忘れな草の葉がモリモリと元気に生い茂るように工夫して育てました」とのことでした。

また、佐久間校長先生からは震災当時の磐城農業高校の様子も聞くことができました。地域の方々の避難所でありながら校舎が倒壊してしまい苦労されたこと、また生徒が1名亡くなったことなど、今回初めてうかがいました。

さらにこの日、東京のコミュニティラジオ「レインボータウンFM」が磐城農業高校での手渡し式の様子を生中継したいという申し出がありました。そこで、2年生の丹治さんと菅野先生がラジオ出演。途中、生中継ならではの学校のチャイムの中断などありましたが、とてもいいお話を聞くことができました。（この放送は、<https://youtu.be/stKVtaxd2Qc>でご視聴いただけます）

磐城農業高校の中で、先輩から後輩へ、この忘れな草プロジェクトがしっかりと語り継がれていることが感じられ、とてもうれしい時間を過ごすことができました。



■手渡し式 ～福島明成高校～

福島明成高校でも手渡し式にたくさんの生徒たちが参加してくださいました。今年はなんと総勢18名。しかも、全員東京へ来て、忘れな草の配布にも参加したいとのこと。3年前、手探りではじめたイベントが、あっという間に高校のみなさんにも受け入れられ、こんなにも多くの生徒たちに参加したいと思ってもらえるようになって、とてもうれしく感じました。明成高校では「葉の成長を抑えて、その分花が早く咲くような工夫をして育てました」とのこと。学校ごとに、いろいろと工夫をして、育ててくれることがわかりました。

東京で、再び元気なみなさんと、花を咲かせた忘れな草たちに会えることを約束して、明成高校をあとにしました。



忘れな草プロジェクト 花から始まる物語 2016

3月19日 表参道まちかど庭園 編

今回は、原宿表参道櫛会さまのご協力で、表参道のほぼ中央に位置する表参道まちかど庭園で、第一日目を開催することになりました。当日は、雨予報のため「全員雨合羽の準備をしてください」と異例の注意が出るほどの状況の中でのスタートでした。

■初の雨合羽での配布

昨年に引き続き、今年も初日は雨。しかも、かつてないほど大雨の中での開催でした。場所も初めての表参道ということで、協会のスタッフ含め、みんな緊張気味。そんな中でも、変わらずに元気だったのが、福島明成高校の佐久間智子先生。あとからうかがった話によると、佐久間智子先生のいるところ必ず“大雨”と福島県内の農業高校の中では有名な雨女だそうです。

そんな佐久間智子先生率いる福島明成高校の生徒たちも、雨にもめげずに元気に声を張り上げてくれました。テントの中で所狭しと準備を進め、街頭に立つ高校生たちへ忘れな草を手渡します。高校生たちも、「雨で受け取っていただけるかとても心配だった」というとおり、道行く人たちも傘を片手に持っているために、なかなか受け取っていただけませんでした。



■最後はシードペーパーを

やはり、雨だとなかなか難しいと気落ちしかけたとき、とてもありがたい応援が来てくれました。第1回目の忘れな草プロジェクトで磐城農業高校の生徒として参加してくれた小野さんと幕内さんです。また参加しますと言ってくれた言葉のとおり、今回、それぞれ社会人と専門学校生として、募金に参加しに来てくれました。

次第に雨も弱まっていき、みんなの顔も笑顔が出てくるようになってきました。合羽を脱ぎ捨て、道行く人たちも傘をたたみ、談笑しあう姿も見受けられました。

気がつくと当初17時前後まで配布する予定だった忘れな草1000鉢があっという間になくなってしまい、15時で終了。

最後のほうは、明成高校の生徒たちメッセージを書き込んだシードペーパー（種を埋め込まれた紙。水につけた後、鉢に植えると発芽する）を配布しました。

この日も恒例のカンタイ（たい焼きで乾杯）で締め、別れを名残惜しみつつ解散しました。

雨の中、みなさん本当にありがとうございました。



忘れな草プロジェクト 花から始まる物語 2016

3月20日 代々木公園 編

今年もアイルランド商工会のご好意で、アイ・ラブ・アイルランド・フェスティバル会場ブースを出店させていただきました。かつてないほどの晴天に恵まれたこの日は、磐城農業高校と相馬農業高校のみなさんが来てくれました。

■陽気な音楽の響く代々木公園で

過去最高の入場者数を見込んでいるとのことだけあって、この日の代々木公園はものすごい人の数でした。そんな中でも、磐城農業高校のブルーのブルゾンと相馬農業高校の緑のブルゾンはとてもよく目立っていました。東京へ出てくるのが初めてという子も多く、はじめのうちはボランティアスタッフといっしょに行動することにしました。なかなか声が出なかった生徒たちも、一人二人と呼びかけに応じてくださる人が出てくるにつれ、どんどん積極的に声をかけていけるようになりました。

同じ場所で3年目ということもあり、以前ここでもらったということで声をかけていただくこともとても多くなりました。なかでも、岩井さんは3年前に銀座で受け取り、きょうここでまた高校生たちに会うためにいらして下さったとのことで、うれしい再会でした。(9ページ写真最上段)



磐城農業高校の斎藤先生は、唯一第一回目から参加してくださっている先生ですが、今年もまた生徒たちの顔を見に休みを使ってきてくださいました。

この日はジェーシー・コムサのみなさん、ポポラママのみなさんはもちろん、その他のほのぼの運動協力会社の方、そのお知り合いの方まで多くのボランティアが参加してくださいました。天気がよかったこともあり、その家族の方まで引き連れてきてくださり、とてもにぎやかで、なごやかなチャリティイベントとなりました。

また、今年も例年どおり、舞台上ではアイルランド大使へ直接忘れな草をお渡しし、これまでの支援に対する感謝とお礼を伝えることができました。

最後に締めのカンタイ（たい焼きで乾杯）をし、みんなたい焼きと同じくらい素敵な笑顔になったところで、翌年の再会を約束し解散となりました。



福島明成高校のみなさんの声

平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

「忘れ草プロジェクト」東京大生会・福島県 有志者のついでに、伝えたいことでも考え、福島を支援したい。忘れ草プロジェクトの仲間が、自分達の思いを込めて育てた忘れ草が、みんなの心に届くことを願っています。忘れ草プロジェクトの仲間が、自分達の思いを込めて育てた忘れ草が、みんなの心に届くことを願っています。

平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

忘れ草プロジェクトに参加して、福島が頑張っていることを「知らないで下さい」という思いを込めて東京の方々に忘れ草を配布しました。受け取って下さる皆様のお顔をみて、参加して良かったと感じました。植物を通して人と人が繋がることが改めて実感することができました。私たちは忘れ草を栽培できたこと、東京のご協力していただいた皆様に本当に感謝しています。

平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

忘れ草を渡す始めた時は、仙台普通に通学の方ばかりに渡してしまいましたが、学校が有ることを思い出しに死傷者が少ないことが、月日が経つにつれてあの日を思い出しては泣くという気持ちを忘れ草に込めて渡すことができたことに本当に思いが東京の方々に届くことには思いが尽きません。

平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

☆ 友達がいなくて寂しかった忘れ草を、多くの人に届けて、みんなが喜ぶことができて、とても良かったと思います。 ☆

平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

忘れ草プロジェクト、自分達の思いを込めて育てた忘れ草が、みんなの心に届くことを願っています。忘れ草プロジェクトの仲間が、自分達の思いを込めて育てた忘れ草が、みんなの心に届くことを願っています。

平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

忘れ草を育てるのには、とても大変でした。東京の方々の支援活動のおかげで、忘れ草が育ちました。忘れ草プロジェクトの仲間が、自分達の思いを込めて育てた忘れ草が、みんなの心に届くことを願っています。

平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

当日は大雨で大変でした。自分が受け取っても、最初は残念な気持ちで、午後になって雨が止み、予定の時間より前に配り終えました。嬉しいと同時に、達成感を感じました。育ててくれた忘れ草は、みんなの心に届くことを願っています。忘れ草プロジェクトの仲間が、自分達の思いを込めて育てた忘れ草が、みんなの心に届くことを願っています。



平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

忘れ草プロジェクトに参加していろいろなことを学ぶことができました。日本人の気持ちは、たくさんの方から優しい言葉が届けられました。当日は雨が降りましたが、みんな健康で活動できて良かったです。たくさんの方々に協力していただき、忘れ草を育てることができました。忘れ草を見ることができ、とても嬉しいです。最後に、東京は復興の番になります。たくさんの方々の感謝の気持ちを忘れずに、このプロジェクトに参加してほしいと思います。今日は本当にありがとうございました！！



平成27年度 忘れ草プロジェクトにさんかしての感想

忘れ草プロジェクトに参加したのは、今日が初めてです。今日にはいい経験ができて、良かったと思います。花を育てる時は、愛情をこめて育てています。忘れ草プロジェクトの仲間が、自分達の思いを込めて育てた忘れ草が、みんなの心に届くことを願っています。



磐城農業高校のみなさんの声

今回の活動に参加する前は不安でいっぱいでした。私たちが育てた苗をもらってくれるか、苗の説明はしっかりできるか、声をかけることができるか、考えれば考えるほど不安になりました。しかし、実際に参加して周りのボランティアの方が一緒に回ってくださったりアドバイスを頂いたり、楽しく活動することができました。また、この活動に対するみなさんの思いを感じることができ、自分もできることを少しずつできるようにしていきたいと思えます。今回の活動に参加させて頂きありがとうございました。



今回のプロジェクトに参加させていただき、ありがとうございました。先輩たちが活動していた時から、自分も参加したいと考えていました。自分たちが育てた苗を箱詰めする際に絶対に苗をすべて配りきろうと考えていました。イベント当日も、他校で育てた苗を合わせてたくさんの苗を目にした時、たくさん声をかけると目標を立てて活動しました。

多くの関係者の方や他のボランティアの方と協力して配り終えたときは達成感でいっぱいでした。また、苗を配った際に「ありがとう」「今年も頑張ってるね」など声をかけていただき、嬉しかったです。私は3年生なので今後、先輩たちがしてくださったように私も後輩に残せるように頑張りたいと思えます。



今回、参加させていただきありがとうございました。活動の中で自分から声をかけて配ることができず、はじめは緊張してしまいましたが、一緒に回っていただいた関係者の方にアドバイスを頂き、少しずつ声をかけられるようになりました。最後は大きな声を出して配ることができたので良かったです。今回得たものを今後の学校生活の中でいかして生きたいと思えます。ありがとうございました。



私は今回、はじめて復興プロジェクト活動に参加させていただきました。最初は、「忘れな草プロジェクトってどんな活動なんだろう」と思っていたのですが、実際に活動の説明や苗を育てたりして、徐々に活動に対して理解し積極的に動くことができました。東京での苗配布活動では、はじめは緊張してなかなか声をかけることができませんでした。しかし、周りの方が一緒に回ってくださり最後には自分から声をかけて配布することができました。今回経験したことを今後に生かしながら、来年も頑張りたいと思えます。



今回このような素晴らしい活動に参加させていただき、ありがとうございました。授業の中で苗を育てながら、私たちがすることは何か、いろいろと考えてきました。苗を配ることで少しでも震災を忘れないように、花を見て思い出してもらえればと思いをこめて活動してきました。苗を配る際にも、声を出して多くの方に配ることができました。また、苗を配る際に育て方や花の説明を丁寧にしたり、日ごろの実習ではできないことを多く経験させて頂いたので、今回学んだこといかして来年に向けて頑張りたいと思えます。



私は今回「忘れな草プロジェクト」に参加させていただき、とても良い経験をさせて頂きました。はじめは、苗を全部配布することができるのか不安でいっぱいでしたが、今回のプロジェクトに関わっている方、全員で配りきることができ、大変うれしかったです。自分たちが育てた苗をたくさんの人にお渡しすることができ、自分でも福島復興のために何かできることがあったと感じました。また来年に向けて頑張りたいと思えます。ありがとうございました。



相馬農業高校のみなさんの声

忘れな草を配っていると、昨年の先輩が配った忘れな草のことを覚えている方がおり、「今年も咲かせたい」と募金をしてくださった方が、「先輩たちがしてきたことを受け継いで今年も頑張つて」と声をかけてくださり、とても嬉しかったです。たくさんあった忘れな草 1,000 鉢を、「感謝」の気持ちを込めて配り終えることが出来ました。

最後に、野外ステージ上でセレモニーが開かれました。毎年の恒例で、私たち高校生からアイルランド大使に忘れな草を贈りました。この体験は、私が今後の学校生活で活かすことの出来る貴重な体験になりました。



始めはプロジェクトに参加することに緊張の反面、楽しみもありました。実際に参加し 1000 鉢のノルマを達成するために磐城農業高校と力を合わせて頑張りました。

初めて配りに行く時は全然声も出ず、ほのぼのプロジェクトのみなさんに引っ張ってもらいながらでしたが、だんだん声も出るようになり最後の方は笑顔で配ることが出来ました。受け取っていただいた人たちには「ありがとう」、「大切に育てるね」、「頑張つて」などととても励まされる言葉をもらいとても印象に残りました。午後には滅多に出来ないアイルランド大使館の大使に忘れな草をプレゼントするという体験が出来ました。



この忘れな草プロジェクトに参加してたくさんのお会いがありました。このプロジェクトに参加できて本当に良い体験がたくさん出来ました。呼んでいただき本当にありがとうございました。

忘れな草を東京の人達に「東日本大震災を忘れないで」という気持ちを込めて配りました。他の地域からもたくさんの人に来ていただき、盛大に盛り上がりました。その他にも色々な屋台などがあり、集まった参加者が楽しそうでした。アイルランドの祭りということで、アイルランドの大使にもきていただき、忘れな草をプレゼントすることが出来ました。忘れな草は、最後まで配り終える事が出来て本当に良かったです。最初は「大丈夫」と断られて心が痛みましたが、後からもらってくれる人も増え、配り終えました。

来年もこのイベントを開催すると言っていたので、是非参加したいと思いました。来年は、もっと忘れな草を増やして、東京以外の人達にも忘れな草を配り、他の地域にももっと知ってもらいたいです。



1000 鉢という数の忘れな草を本当に配れるのか、配れなかったらどうしようという不安でいっぱいでした。最初、配りに行く時はスムーズに声が出ずに配るのにとっても苦労しました。徐々に時間が経つにつれ、忘れな草を配ることに自信が付き最初より声が出るようになり笑顔で配る事ができるようになっていきました。1000 鉢配るのもあつという間でした。午後からは、滅多に体験する事が出来ないアイルランド大使館の大使に忘れな草を手渡しする事が出来とても嬉しかったです。

忘れな草プロジェクトに参加した事で、自分達の住んでいる福島だけでなく東北の復興に向けて自分出来る事を精一杯やっていきたいです。また、自分達が育てた忘れな草を笑顔でもらってくれた方達、募金をしてくれた方達の為にも早く東北にたくさんのお笑顔を発信していきたいと思いました。

今回、忘れな草プロジェクトに参加でき自分自身の考えを見直す機会が出来とても勉強になりました。このような、プロジェクトに呼んで頂きありがとうございました。



忘れな草プロジェクト 花から始まる物語 2016

番外編 学習院大学馬術部

2016年2月下旬、歴史ある学習院大学馬術部の佐藤洋平さんから「学習院大学馬術部として忘れな草プロジェクトに寄附をしたい。そして、“ほのぼの運動 忘れな草プロジェクト”の花壇を作りたいのですが」との申し出があり、そのお話をうかがってきました。



——今回はご寄附をくださり、そして花壇まで作ってくださり、ありがとうございます。とてもきれいな花壇ですね。

馬術部の中に有志で農業課を作って、いろんな花を植えたり、野菜を作ったりしているんです。ニンジンを自分たちでつくって馬にあげられないかなと思って、去年はトマト、きゅうり、ナスやニンジンを作りました。今年はこれからとうもろこしやスイカにも挑戦しようと思っています。

——馬術部農業課とはおもしろいですね。どうしてそんなことをはじめられたんですか？

実は、長年僕たちを乗せてくれていた雪桜とい

う馬が昨年12月に引退したんです。競技のトップレベルを走りながらも、初心者の子でも安心して乗れるような馬で、歴代の馬術部員が一番お世話になった馬でした。でも、25歳（人間で言えば100歳ぐらい）だったので、引退して福島牧場へ行ってしまったんです。そうしたら、みんなどこか仲間がいなくなったような、心にぽっかり穴があいたようなさびしさがあって、それを埋めるために花を植えたのが最初です。

そんなときに、そういえば忘れな草プロジェクトの忘れな草は福島から来ているんだよと思って、雪桜が東京から福島へ、福島から来た忘れな

草をここに持ってこられたらと思って、ほのぼの運動協議会さんへお願いしたのがきっかけです。——これを見学しに、福島の高校生たちもここに見に来られるようになるといいですね。

僕たちも、震災を直接ではないけれど体験したことで、いざというときに馬たちをどうしてあげればいいのかということをとっても考えました。馬術というスポーツにおいては馬はペットではなくてパートナーなんです。だから、何かあったときにどうすべきかということを考えなければいけない。そういうことも含めて、これからも東日本大震災の記憶を後輩たちにも持っていてもらいたいなと思っています。まさに、この「忘れな草」の伝承です。

——ところで、学習院大学の馬術といえば、そのまま日本の馬術の歴史ともいえるほどのものだと聞いたのですが。

日本で一番最初に授業の中に馬術が取り入れられたのが学習院です。その馬術部も、創立1879年（明治12年）と歴史が古く、今上天皇も馬術部でご活躍された由緒あるものです。

また厩舎も明治41年に竣工されたもので、当時の最先端の西洋型のもので、国の有形文化財として登録されているほどです。もともとはいまとは少し違う場所にあったのですが、そのまま移設したため建物は100年前のままのものです。

都会の真ん中に馬場があることもあまり知られていませんので、ぜひ、この機会にこの忘れな草の花壇や歴史ある厩舎、かわいい馬たちを多くの方に見に来ていただきたいです。



学習院大学馬術部

所在地：東京都豊島区目白1-2-18

学習院大学目白キャンパス構内

見学の際は、馬術部員にひと声かけてからお願いたします。また、ホースセラピーや体験乗馬会などのイベントも開催しております。詳しくは、gakushuinuma@gmail.comまでお問い合わせください。



国登録有形文化財



通路をはさんで左右両側に馬房があるのが特徴

AITAI プロジェクトさまより寄附をいただきました

昨年に引き続き今年も AITAI プロジェクトさまよりご寄附をいただきました。



忘れな草プロジェクト 2016 収支報告

収入金額	
寄附金収入	395,620
活動協力金(ポポラマーマ)	322,815
ほのぼの運動	656,755
合計	1,375,190

被災地の活動支援金	
ワスレナグサ栽培費	194,152
旅費・交通費	401,325
寄附金	
寄附金(相馬農業高校、磐城農業高校、福島明成高校)	300,000
被災地支援費合計(活動支援費+寄附金)	895,477
その他の経費	
包装資材費	179,222
販促物作成費	271,801
その他雑費	28,690
合計	479,713

支出金額合計(被災地の活動支援金、寄附金、その他の経費)	1,375,190
差引	0

最近ダイエットをかねてできるだけ歩くように心がけていますが、こうも暑いといくら早朝でもすぐに汗だくです。

先日、生涯で500余りの会社を作ったといわれる日本の資本主義の父・渋沢栄一氏のお孫さんである鮫島純子さんの話をお聴きました。御歳93歳です。70歳でスキューバダイビングを始め、80歳で社交ダンスを始めたんですって。93歳なのに会話のスピードは私たちと同じで、講演の途中で話が横にそれてもすぐに戻ってこれるんですよ。すごいでしょ。

その鮫島さんは朝4時30分に起きて明治神宮をお散歩されるそうです。歳だからなんていってられないとつくづく思いました。猛暑だ、歳だということなく、いくつであろうと元気に若々しく暑さを乗り越えたいものですね。この夏、元気みなさんにお会いできること、楽しみにしています！

副理事長兼事務局長 作間由美子

ほのぼの News Letter No.7

発行日：2016年6月30日

発行：一般社団法人ほのぼの運動協議会

編集制作：ほのぼの運動協議会 事務局

〒150-0022

東京都渋谷区恵比寿南 1-15-1

A-PLACE 恵比寿南 2 F

TEL:03-5722-1070

FAX:03-5722-7396

問い合わせ：jimukyoku@honobono-undo.org